

日本産ヒメハナムシ科の暫定リスト

–Gimmel (2013) の紹介–

吉富博之¹⁾・亀澤 洋²⁾

¹⁾ 〒 790-8577 松山市文京町 3 愛媛大学ミュージアム

²⁾ 〒 350-0825 川越市月吉町 32-17

Check list of Japanese Phalacridae –Introduction of Gimmel (2013)–

Hiroyuki YOSHITOMI and Hiromu KAMEZAWA

緒言

ヒメハナムシ科 Phalacridae は、世界から 600 種を超えるヒラタムシ上科の中では比較的大きな科である (Gimmel, 2013)。Leschen *et al.* (2005) は、本科がケシキスイ科 Nitidulidae, Kateritidae, Smicripidae, Tasmosalpingidae, Cyclaxyridae, Propalticidae, Laemophloeidae が含まれるグループの姉妹群であるとし、Hunt *et al.* (2007) では Laemophloeidae と Propalticidae の姉妹群であるとしている。しかし、ヒラタムシ上科自体が多系統である可能性も指摘されている。

Gimmel (2013) はヒメハナムシ科の世界の属の再検討を行った。本論文は総括的なものであり、本科の今後の分類学的研究の礎となるものと思われる。この中には種のリストも付けられており、いくつかの種については属の移動等もなされている。そこで今回、その論文中から日本産種を抜き出して紹介するつもりで作業を行ったところ、現在の扱いが不明な種がいくつか存在し、本論文だけでは日本産種のリストを完成させることができないことがわかった。そこで、著者である Gimmel 氏に文献類をご教示いただき、日本産の現状のリストを取り纏めることにした。その結果、以下にあげる 33 種が日本から記録されていることが判明した。しかし Gimmel 氏によると本リストはあくまで暫定的なもので、種の再検討が必要なものが多く、日本の研究者による今後の研究に期待したいとのことである。

本報告を取り纏めるにあたり、文献類のご教示等でお世話になった Matthew L. Gimmel 氏と、様々な指摘を頂いた平野幸彦氏と愛媛大学ミュージアムの酒井雅博博士にお礼申し上げる。

リスト

以下のリストは、Gimmel (2013) に基づき作成し、Švec (1992)、久松 (1959, 1985)、および Lyubarsky

(1996) も参考にした。和名および国内の分布については、原則的に九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編 (1989) に従った。G. Lewis が日本で採集したタイプ標本の詳細なデータが Švec (1992) によって示されているものに関しては、江崎 (1953)、草間 (1971a, b) を参考に分布情報に反映させた。国外分布に関しては、主に Gimmel (2013)、Švec (2007) から抽出した。

なお、チビヒメハナムシ *Stilbus pumilus* (Hochhuth, 1872) については、Švec (1992) により模式標本がヒメハナムシ科に属するものではないことが明らかにされている。久松 (1985) が図示した種がそれでないことは確かである。ただし、本種とされてきた“存在”がどの種に該当するか、模式標本がどの科のどの種に該当するか等については不明である。

1. ミジンムシモドキ *Phaenoccephalus castaneus* Wollaston, 1873
分布：本州，九州，対馬；台湾，ロシア，東洋区。
2. キイロヒメハナムシ *Phaenoccephalus kobensis* (Champion, 1925)
分布：北海道，本州，九州，種子島；台湾。
備考：Gimmel (2013) により属変更された。
3. *Acylomus bifurcus* (Švec, 1992)
分布：日本。
備考：Gimmel (2013) により属変更された。
Švec (1992) は、G. Lewis 採集のホロタイプの産地が日本であること以外ふれていない。
4. *Acylomus confusus* (Švec, 1992)
分布：本州，九州。
備考：Gimmel (2013) により属変更された。

- Švec (1992) は、G. Lewis採集のタイプシリーズのデータとして長崎, Nugata (日付から考えてもNiigataの誤りと判断される), Joko (瀬戸市定光寺か? : 以下同) の地名を挙げている。本種はアメリカから分布が知られる別種 *Acylomus confusus* Casey, 1916のホモニムだが、Caseyによって記載された種はシノニムで消えると考えられており、Gimmel (2013) は別名を与える措置を取っていない。
5. *Acylomus curvilineatus* (Champion, 1924)
分布：日本；アフガニスタン，インド，ネパール，ジャワ。
備考：Gimmel (2013)により属変更された。Švec (1992)は、本種のシノニムとなった*Stilbus meridianus*の日本産パラタイプの産地として、Jokoの地名を挙げている。
 6. *Acylomus interpositus* (Švec, 1992)
分布：日本。
備考：Gimmel (2013)により属変更された。Švec (1992) は、G. Lewis採集のホロタイプの産地が日本であること以外ふれていない。
 7. *Acylomus orientalis* Gimmel, 2013
分布：九州；中国。
備考：Švec (1992)は、G. Lewis採集のホロタイプの産地が長崎であることを示している。
 8. エムモンチビヒメハナムシ *Acylomus polygramma* (Flach, 1888)
分布：本州，伊豆諸島，小笠原諸島，四国，九州，対馬，五島列島，琉球；台湾，ボルネオ，マレー半島，インド，アルジェリア，エジプト，フランス，ギリシア，イタリア，スペイン，イスラエル，シリア，トルコ。
備考：Gimmel (2013)で属変更された。名義タイプ亜種は、地中海沿岸地域に広く分布することが知られるが、日本亜種*A. polygramma rubidus* (Flach, 1889)や他地域の個体群との関係は不明。原記載は不十分で、探索にもかかわらずタイプ標本も発見されず、分類上の扱いは保留されている (Švec, 1992)。
 9. ヨコスジチビヒメハナムシ *Stilbus avunculus* Flach, 1889
分布：本州，四国，九州；中国。
 10. アカボシチビヒメハナムシ *Stilbus bipustulatus* Champion, 1925
分布：本州，四国，九州。
 11. *Stilbus coxalis* Švec, 1992
分布：本州，九州。
備考：Švec (1992)は、奈良，熊本県一勝地 (Ichiuchi)，Ura Rama (不詳；以下同) の地名をタイプシリーズのデータとして挙げている。
 12. *Stilbus japonicus* Švec, 1992
分布：本州，九州。
備考：Švec (1992)は、新潟，京都，長崎，奈良，熊本県球磨地域 (Kuma Kuni)，Joko，Ura Ramaの地名をタイプシリーズのデータとして挙げている。
 13. エゾヒメハナムシ *Stilbus yezoensis* Hisamatsu, 1985
分布：北海道。
 14. チャイロズマルヒメハナムシ *Litostilbus festivus* (Motschulsky, 1858)
分布：本州，伊豆八丈島，四国，九州，対馬，種子島；中国，台湾，ネパール，インド，スリランカ。
備考：Gimmel (2013)により属変更された。
 15. ニセクロズマルヒメハナムシ *Phalacrus brevidens* Champion, 1925
分布：本州，四国，九州。
 16. *Phalacrus kuznetzovi* Lafer, 1992
分布：日本；ロシア。
 17. チビズマルヒメハナムシ *Phalacrus luteicornis* Champion, 1924
分布：北海道，本州，四国，九州，対馬，琉球；台湾，インド北部。
 18. クロズマルヒメハナムシ *Phalacrus punctatus* Champion, 1925
分布：本州，九州，トカラ列島；中国，台湾。
 19. ヒゲナガズマルヒメハナムシ *Phalacrus tenuicornis* Champion, 1925
分布：奄美大島；中国，東南アジア，インド。

20. *Olibrus affinis* Sturm, 1807
 分布：日本；北アフリカ，ヨーロッパ，ロシア，イスラエル，モンゴル，シリア，トルコ。
 備考：Švec (2007) に掲載されている。
21. トビイロヒメハナムシ *Olibrus consanguineus* Flach, 1889
 分布：本州，四国，九州，対馬，甌島，屋久島，琉球；台湾。
22. フタスジヒメハナムシ *Olibrus particeps* Mulsant et Rey, 1861
 分布：北海道，本州，佐渡島，四国，九州；北アフリカ，ヨーロッパ，キプロス，ロシア，イラエル，レバノン。
23. *Olibrus rufopiceus* Motschulsky, 1858
 分布：日本；スリランカ。
24. ベニモンアシナガヒメハナムシ *Augasmus coronatus* (Flach, 1889)
 分布：本州，四国，九州，対馬；台湾。
25. クロモンアシナガヒメハナムシ *Augasmus nigromaculatus* (Hisamatsu, 1985)
 分布：奄美大島；台湾。
26. キイロアシナガヒメハナムシ *Augasmus nipponicus* (Hisamatsu, 1985)
 分布：本州，伊豆諸島，四国，九州，五島列島，種子島，沖縄島。
27. シロウズヒメハナムシ *Augasmus shirozui* (Hisamatsu, 1959)
 分布：対馬；ロシア。
28. *Augasmus ligatus* Motschulsky, 1858
 分布：日本；中国，スリランカ，ベトナム，フィリピン，パプアニューギニア。
 備考：Švec (2007) に掲載されている *Augasmus sinuatus* Motschulsky, 1858 は，Lyubarsky (1996) により本種の新参シノニムとされている。
29. アシナガヒメハナムシ *Augasmus thoracicus* (Fleutiaux, 1887)
 分布：徳之島，沖縄島，石垣島；台湾，南アジア，オーストラリア，マダガスカル。
- 備考：Švec (2007) に掲載され，日本に分布することになっている *Litochrus championi* Hetschko, 1929 について，久松 (1959) は日本産の本種 *Heterolitus thoracicus* (*Heterolitus* は *Augasmus* の新参シノニムとなっている) と区別しうるものとして *championi* を有効名と見なすか，技術上の命名ミスとして消えるべき名前としている。Gimmel (2013) はアフリカ産のタイプを検した結果，有効名と見なし，属を *Acylomus* に移動し，分布をアフリカのみとしている。つまり，*Acylomus championi* (Hetschko, 1929) は本種とは別物で，日本には分布していないということになる。
30. フタホシヒメハナムシ *Litochrus bimaculatus* (Matsumura, 1914)
 分布：北海道，本州，四国，九州，対馬。
 備考：Gimmel (2013) により属変更された。Švec (2007) に掲載されている *Merobrachys rufosignatus* Champion, 1925 は，久松 (1959) により本種の新参シノニムとされており，Gimmel (2013) もこの処理に従っている。
31. コガタホソヒゲヒメハナムシ *Litochrus minutus* Hisamatsu, 1985
 分布：石垣島；ボルネオ。
32. ホソヒゲヒメハナムシ *Litochrus rufoguttatus* Champion, 1925
 分布：本州，四国，九州。
33. リュウキュウホソヒゲヒメハナムシ *Litochrus ryukyuensis* Hisamatsu, 1985
 分布：奄美大島，沖縄島，石垣島。

引用文献

- 江崎悌三, 1953. 外国人による九州の昆虫採集. 新昆虫, 6(3): 2-7.
- Gimmel, M., 2013. Genus-level revision of the family Phalacridae (Coleoptera: Cucujoidea). Zootaxa, 3605 (1): 1-147.
- 久松定成, 1959. 日本産ヒメハナムシ科について. あげは, (7): 1-7.
- 久松定成, 1985. ヒメハナムシ科. pp. 271-274, pl. 45. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社.
- 草間慶一, 1971a. ジョージ・ルイスの足跡について (上). 月刊むし, (8): 18-23.
- 草間慶一, 1971b. ジョージ・ルイスの足跡について (下). 月刊むし, (9): 14-20.
- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編

- (1989) 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡, 1,767pp.
- Leschen, R.A.B., J. F. Lawrence, & S. A. Šlipiński, 2005. Classification of basal Cucujoidea (Coleoptera: Polyphaga): cladistic analysis, keys and review of new families. *Invertebrate Systematics*, 19: 17–73.
- Lyubarsky, G. Y., 1996. Species of the genus *Augasmus* (Coleoptera, Phalacridae) from New Guinea in the collection of Zoological Museum (Berlin). *Russian Entomological Journal*, 5: 39–48.
- Hunt, T., J. Bergsten, Z. Levkanovica, A. Papadopoulou, O. St. John, R. Wild, P. M. Hammond, D. Ahrens, M. Balke, M. S. Caterino, J. Gómez-Zurita, I. Ribera, T. G. Barraclough, M. Bocakova, L. Bocak & A. P. Vogler, 2007. A comprehensive phylogeny of beetles reveals the evolutionary origins of a superradiation. *Science*, 318: 1913–1916.
- Švec, Z., 1992. A review of the Palaearctic species of the genus *Stilbus* (Coleoptera, Phalacridae). *Acta Entomol. Bohemoslov.*, 89: 429–450.
- Švec, Z., 2007. Phalacridae. 506–513 pp. Löbl, I. & A. Smetana (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Volume 4. Elateroidea – Derontoidea – Bostrichoidea – Lymexyloidea – Cleroidea – Cucujoidea*. Apollo Books, Stenstrup.

(2013年2月22日受領, 2013年3月8日受理)

【短報】ミナミヒラタハネカクシ属2種の記録

ミナミヒラタハネカクシ属 (*Eupiestus*) の種は東南アジアに広く分布し, そのうちの1種 *Eupiestus giganteus* Shibata, 1991 は特異な形態を持つハネカクシとして柴田泰利氏により北ボルネオとマレー半島から記載された. 今回, 西スマトラ産の標本を検査する機会があったので, 新産地として報告する. もう1種は同属のハネカクシとして直海俊一郎博士により日本 (西表島) から初めて記載されたワタナベミナミヒラタハネカクシ *E. iriomotensis* Naomi, 2011 で, 新たに石垣島産の標本を検査する機会があったので, あわせて報告する.

写真での同定確認をお願いした柴田泰利氏, 貴重な標本を検査する機会を与えられた有本久之氏と細川浩司氏に, また図版の作成にお世話になった吉富博之博士に感謝する.

検視標本データ

1. *Eupiestus giganteus* Shibata, 1991

1ex., Mt. Sago, W. Sumatra, Indonesia, VI. 1991, S. Yamada leg. (図1)

分布: 北ボルネオ, マレー半島, 西スマトラ (新記録).



図1. *Eupiestus giganteus* Shibata, 1991 (スケール5.0 mm).
 図2. ワタナベミナミヒラタハネカクシ (スケール1.0 mm).

2. ワタナベミナミヒラタハネカクシ *Eupiestus iriomotensis* Naomi, 2011

1ex., 沖縄県石垣島御神崎, 30. XII. 2003, 細川浩司採集. (図2)

分布: 日本 (西表島・石垣島 (新記録)).

引用文献

- Naomi, S.-I., 2011. Discovery of the genus *Eupiestus* Kraatz, 1959 (Coleoptera, Staphylinidae, Piestinae) from Japan with description of a new species from Iriomote Is., Nansei Islands. *Jpn. J. syst. Ent. Matsuyama*, 17: 59–63.
- Shibata, Y., 1991. A large-sized new *Eupiestus* (Coleoptera, Staphylinidae) from Southeast Asia. *Elytra*, Tokyo, 19: 229–234.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳7番地 E12-102)

【訂正】

2012年, 本誌第8号6ページの短報「御蔵島でアバタツヤナガヒラタホソカタムシを採集」にて, 筆者は本種を御蔵島からの初記録と報告したが, 以下の論文にて既記録であった.

澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 14(1): 1–48.

筆者の不明を恥じるとともに, 2例目の採集例としてお詫びして訂正する.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)